

巻頭言

名古屋学芸大学健康・栄養研究所
所長 下方 浩史

2020年の1月からコロナ禍が広がって1年が経過しました。まだまだ、新型コロナウイルス感染は収まりそうもありません。研究所主催の実践活動も多くが中止になりました。研究活動が思うように進まなかった研究者も多かったと思います。こうした困難にもかかわらず、今年も健康・栄養研究所年報の第12号を無事に発刊することができました。本誌は名古屋学芸大学健康・栄養研究所の研究や実践活動の成果発表の場であるとともに、その成果を広く社会に知っていただくために発刊を続けています。2009年から、本誌は医学中央雑誌データベースに定期刊行物として収録され、医中誌 Web でも検索できるようになっています。第12号では原著2編、報告4編、総説1編の計7本の論文を掲載しています。

原著では「女子大学生のやせ願望と栄養摂取状況の検討」、「脂肪肝患者における生活習慣病の実態に関する検討」と、栄養疫学研究を中心とした成果を掲載しました。報告では「アタッチメント形成に着目した食育プログラムの検討—家族と一緒に「おいしいね」の絵本づくり」、「嚥下調整食の地域連携「とよた嚥下食の○（輪）」8年間の成果と今後の展望」、「第2回実務者のための栄養管理プロセス研修会（NST 合宿）報告」、「実務者のための栄養管理プロセス研修会合同研修会報告」と、さまざまな実践活動や研修などが報告がされています。総説では、食生態学に関連する教材開発について、「「栄養・食教材開発のPDCAモデル」の提案：食生態学を視座とする教材開発プロセスでの検証」を掲載しました。

今年も、「食」に関する論文が多く集まりました。毎日欠かすことができない「食」は、健康と関わる最も重要な生活習慣であるとともに、環境や教育の分野にも重要な役割を担っています。研究所からの研究成果や実践活動が、私たちの健康や生活を守っていくことにつながることを願っています。